

「優秀な建築物」と「良質な社会資本」への顕彰

日建連表彰始動!

この度、日建連は60年の長きにわたり日本の優れた建築物を顕彰してきたBCS賞に加え、社会基盤として生活、経済、産業を支える土木構造物を顕彰する新たな「土木賞」を設け、この2つの賞を合わせた「日建連表彰」を創設した。建築物の伝統と、社会基盤の存在価値を謳う日建連表彰が未来に向けた建設の歴史を紡ぎ始める。

日建連表彰委員会の宮本洋一委員長が、その目指すべきところや意義を語る。



日建連表彰委員長
宮本 洋一

日建連表彰

土木分野

第1回

土木賞

建築分野

第61回

BCS賞

土木・建築における 多様な関係者を顕彰

日建連では活動の二環として会員企業の活動や優秀な建築物を対象とした表彰制度を設け、その顕彰を業界内外に発信してきました。その一つ、BCS賞は旧建築業協会が実施していた国内の優れた建築物を顕彰する代表的な表彰制度です。一九六〇年に創設され、二〇一一年に三団体が合併した後も、現在の日建連に継承されています。

一方で土木分野を対象とする表彰制度はこれまでありませんでした。日建連として相応しい表彰のあり方をゼロから検討し直した結果、建築分野で「優秀な建築物」を表彰するBCS賞に加え、土木分野で新たに「良質な社会資本」の構築という視点を持った土木賞を設け、日建連表彰として一体的に顕彰する表彰制度を創設しました。

二〇一八年夏より検討委員会を設け、議論を重ねてきましたが、その経緯において、二つの軸がありました。一つは、今年で六〇回を迎えたB

CS賞の伝統をいかに継承するかという点。建築主、設計者、施工者の三位一体を顕彰するユニークな制度は他にありません。

もう一つの軸は、土木分野の表彰について日建連としての独自性を発揮しながら、歴史あるBCS賞の考え方の同一性をいかに出していくかということでした。

土木賞の対象者については発注者、設計者と施工者の区分が明確ではないことがあります。土木分野のプロジェクトは長期にわたり、関係者も非常に多い。こうした現実を踏まえ、発注者、設計者だけではなく、専門工事業者や建設業以外の関連企業等、施工プロセスに貢献した多様な関係者を顕彰対象としました。更に、竣工後一年で維持管理の状況まで評価することは困難です。そのため、概成した段階で、維持管理のための工夫がなされているかという点を含めて「施工プロセス」に重きを置いて評価するよう規定しています。この土木賞創設を機に、BCS賞についても従来の三位一体という枠を広げ、技術分野や専門分野など、プロ

ジェクトに協力、貢献された関係者も対象とすることが決まっています。

BCS賞の受賞作品は一五件以内とし、特別賞は廃止しました。従前の特別賞の評価基準を賞全体の評価軸に取り込んだという事です。ただ、対外的な発信力を高める象徴として「代表作品」は示していきます。土木賞の受賞作品は一月内外とし、特別賞を設定します。十二月三十一日に概ね竣工している

ことが条件です。

また、日建連表彰の円滑な運営、選考を担う表彰委員会を設け、その下部組織として土木部会、建築部会に併せ、各賞の選考委員会を設置します。選考委員会には外部有識者を選定し、厳格な選考基準に則り、一次、二次と段階的に選考を行っていくこととしました。

BCS賞の精神を継承し 秀でた取組みにも注目

土木賞は昨年から今年にかけて模倣選考を行い、選考方法の検討や課題の抽出を行ってきました。そうした検証作業を踏まえ、必要に応じて微調整しながら進めていきたいと考えています。BCS賞は創設当時の精神は変わりませんが、社会や時代の要請に因應するべく、柔軟に見直しを行ってきました。そうした変更の経緯を「日建連表彰」の創設を機に、明文化して分かりやすくしました。

一方、土木事業はその成果が社会インフラの整備に直結します。公共性が非常に高いとも言えます。土木

賞においてはその公共性、つまり世の中

でどう役に立っているのかという視点が大きな要素になると思います。必ずしも大規模プロジェクトだけではなく、省資源化やリサイクル、独自の高い生産性向上施策、加えて情報化施工やロボット化をはじめとするi-Constructionの推進といった、その時々々の社会ニーズに呼応するキラリと光る取組みも表彰対象とすべきだと考えています。

建設業界と社会の発展に 寄与する表彰制度として

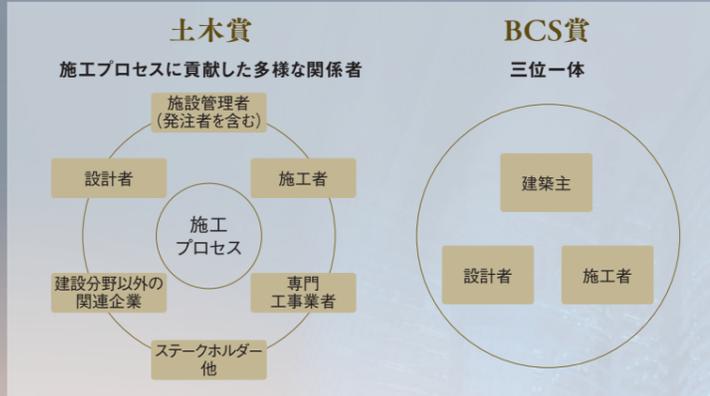
BCS賞は約六〇年前に旧建築業協会初代理事長の竹中藤右衛門氏の、「優秀な建築物をつくり出すためには、デザインだけではなく施工技術も重要な要素であり、建築主、設計者、施工者の三者による理解と協力が必要である」との想いから創設された表彰制度です。デザインだけとか機能だけではなく、その過程における施工技術やその他建築全般にかかわる技術や評価してきたことで、建築主や使用者から高い評価

を受けています。その精神は今も生

きています。一方で、社会構造は多様化しており、環境問題や都市計画など、様々な課題が顕在化しています。BCS賞はこのような問題、要請に応えるべく進化してきました。日建連表彰にもそうした評価軸は反映されています。これを要項に明文化したことは大きな特徴だと思えます。そして表彰の根拠、選考の経緯をより積極的に発信していくことも大切です。

この日建連表彰を通して、建設業が社会において優れた建築物、社会基盤を造り、守り、維持するという重要な使命を担っているという事実をアピールしていきたい。そのためには、それだけの訴求力を持った成果を選考するという強い意志を持たなければなりません。

いよいよ来年一月から募集が始まります。建設業が生まれ変わろうとしている今、この新しい表彰制度が建設業界の発展とともに文化の進展、国民生活、産業基盤の充実、更には地方創生や環境保全にも寄与するものとなることを願っています。



建築分野
第61回
BCS賞



※正方形の中に建物をデザインした図形は、1985年に建築業協会によって商標登録されている。

選考委員会委員 (敬称略、五十音順)

赤松佳珠子	(株)シーラカンスアンドアソシエイツ (法政大学)
伊香賀俊治	慶應義塾大学
賀持 剛一	(株)大林組
川島 克也	(株)日建設計
国府田道夫	(株)三菱地所設計
後藤 春彦	早稲田大学
菅 順二	(株)竹中工務店
竹内 徹	東京工業大学
徳久 光彦	戸田建設(株)
堀部 安嗣	堀部安嗣建築設計事務所 (京都造形芸術大学)
松村 正人	大成建設(株)
野城 智也	東京大学



建築主に贈られ、受賞作品に取り付けられる表彰パネル

《BCS賞のあゆみ》

創設された当時の名称は「建築業協会賞」で、第一回から第五一回までの表彰パネルには、この名称が刻まれています。その後、二〇一一年に建築業協会が「日本建設業団体連合会(旧日建連)」「日本土木工業協会(土工協)」と合併し、日本建設業連合会が設立されたことを機に、第五二回(二〇一一年度)より、「BCS賞」に改称しました。建築業協会の英語名である Building Contractors Society 由来しています。



第1回受賞作品 (1960年) 日本電波塔

名称の変更だけでなく、時代の要請に応じてその都度種々の見直しが行われてきました。

第一回選考委員会
第一回受賞作品は、いずれも当時の建築界を代表する建築家一人名の選考委員により選出されました。

大江宏・尾崎久助・久良知丑二
郎・清水一・谷口吉郎・土浦亀城・東畑謙三・中田亮吉・松下清夫・松田軍平・村野藤吾

神は変わらなず継承されてきました。

第四回からは、学識経験者・建築家・建設業関係者が各四名、計十二名という構成で現在まで続いています。

現地調査

本賞の募集は例年一月に行われます。対象は、供用開始後一年以上を経過した建築物です。この規定の理由は、本賞が「良好な施工」「建築物の維持管理状態や利用状況などを重視するためです。従って、応募作品が使われている状況で訪問して審査する現地調査は、本賞の選考において欠かせない要素となっています。

現地調査は第一回から受け継がれ、現在は第一次選考(書類審査)の後に現地審査が行われています。

第六一回以降のBCS賞について
第六一回以降を対象に、本賞について発展的見直しを行いました。元来の「目的」「三位一体」の表彰対象や特定の分野・観点に偏らない「総合評価」については創設当初から普遍ですが、評価項目を五つにし、「与条件の解決に取り組む求心性」と「企画的技術的チャレンジ」の二つの評価軸を設けました。これらの評価軸は審査のプロセス全体を通して、共通のキーワード、背景を明示するものでもありません。印象評価ではない総合評価としての「審査の一貫性」を明確化するものです。

また、受賞作品数は一五件以内へと変更し、特別賞は廃止します。従来どおり受賞作品の中から「代表作品」を選定しますが、審査の厳格化とBCS賞のメッセージ性を表明し、賞全体の対外的発信力を高めることを目的としているため、他の受賞作品と優劣をつけるものではありません。更に、各受賞作品について、当該作品の優れている点を評価項目に沿ってわかりやすく示した選定理由の公表も行います。

土木分野
第1回
土木賞

選考委員会委員 (敬称略、順不同)

木村 亮	京都大学
岩波 基	早稲田大学
田島 芳満	東京大学
東川 直正	国土交通省
野中 賢	(株)日経BP
酒井 利夫	(一社)建設コンサルタンツ協会
豊岡 司	(一社)日本建設機械施工協会
樋口 義弘	清水建設(株)
曾根 浩	(株)安藤・間
東野 光男	(株)大林組

《新表彰制度導入の背景》

二〇一二年の新日建連発足以降、土木・建築の両分野で活動の場が広がっており、活動領域を踏まえた新しい表彰制度を設けることとしました。それが日建連表彰「土木賞」です。

日建連表彰「土木賞」の概要

- ①募集の前年末までに概ね竣工した土木分野のプロジェクト・構造物を対象にします。
- ②幅広い関係者の応募が可能です。日建連会員以外の建設会社が行った案件も対象になります。

- ③施設管理者(発注者を含む)、設計者、施工者(これを支える専門工事業者等を含む)など多様な関係者を表彰対象者にします。
- ④施工者団体が設ける賞として、事業企画から維持管理までの総合評価に加え、施工プロセスの視点(施工プロセスの改善、良質な社会資本の効率的創出、土木技術の発展・伝承など)を重視します。
- ⑤固有の課題への取組みで特に優れているものを特別賞として表彰します。
- ⑥特別賞を含め一〇件内外を表彰します。
- ⑦受賞者には、表彰状、表彰パネル、賞牌を贈呈します。

- ⑧選考にあたっては、学識者・行政、建設コンサルタント、建設施工機械メーカー、メディア、施工者から構成される選考委員会で多面的な評価を行います。
- 期待される効果
毎年、優良なプロジェクト・構造物を表彰し、広く内外に紹介することにより、土木に係る事業企画の質及び計画・設計、施工、環境、維持管理、その他土木技術の進歩向上を図ることができま
- その結果、良好な土木資産を創出し、わが国の国民生活と産業活動の基盤の充実に寄与することが見込めます。

「施工プロセスの視点」の例

- 施工プロセスの改善
- コストの低減
 - 建設費の低減
 - ライフサイクルコストの低減
 - 補償費等の抑制
 - 環境の維持
 - 建設工事に伴う公害の防止 (騒音・振動・水質汚濁・大気汚染等)
 - 施工中の景観の保全
 - 作業環境の改善
 - 自然環境の保全
 - CO₂排出量削減
 - 交通の確保
 - 規制時間の短縮
 - 交通ネットワークの確保
 - 特別な安全対策
 - 第三者の安全確保
 - 施工者の安全確保
 - 省資源又はリサイクル
 - エネルギー消費量の削減
 - 建設副産物の発生量削減

良質な社会資本の効率的創出

- 構造物の性能・機能の向上
 - 耐久性の向上
 - 強度の向上
 - 美観の向上
 - 供用性の向上
- 安全・安心の向上
- 生産性向上
 - 工程短縮
 - 限定された期間内での確実な施工
 - 情報共有システムの活用
 - 情報化施工
 - プレキャスト化
 - 機械化・ロボット化
- 省人化
- i-Construction

土木技術の発展・伝承

- 技術伝承の取組み、育成
- 建設業を取り巻く他産業との関係強化
- 新しい建設システム
- 特別な事業マネジメント

その他

- 建設業のイメージアップ活動
- 社会貢献活動
- 復興支援
- 特別な地元対策 など



第60回BCS賞表彰式の様子



懇親祝賀会の様子

応募

応募方法や応募申込書、応募先などの詳しい情報については、左記URL、もしくはQRコードより、ホームページにアクセスしてご覧ください。

また、選考基準に関しても同様にホームページに掲載しています。応募に関する要項や応募に必要な資料、著作権上の注意事項などが記載されています。



<https://www.nikkenren.com/sougou/award.html>

受賞作品、プロジェクト・構造物

BCS賞の受賞作品、土木賞の受賞プロジェクト・構造物については、決定後応募者に通知・公表するとともに、日建連のホームページ・刊行物などを通じて内外に広く発信します。

これまで日建連ホームページに掲載されていたBCS賞ページがこの度刷新され、過去の受賞作品をデータベースから年度別、エリア別、キーワード、建物名、建物用途、建築主名、設計者名、施工者名で検索できるようにになり、応募の参考にすることも可能です。また、作品の写真の閲覧、地図上で作品が探せる機能、スマートフォンやタブレットでの閲覧に対応した機能など、実際に建物をみるためのコンテンツが追加されました。英語ページも設け、国内だけではなく海外への情報発信ツールとして今後広く活用されることを期待しています。

同様に土木賞ページも開設され、第一回からの受賞プロジェクト・構造物情報が蓄積されていきます。

表彰式

受賞作品、プロジェクト・構造物はBCS賞・土木賞ともに、日建連表彰委員会での決定後に公表され、十一月に各関係者をお招きして表彰式が盛大に開催されます。

選考委員代表からの選考報告、来賓からのご挨拶に続き、各受賞作品、プロジェクト・構造物の代表者に表彰状が授与され、最後に受賞者の代表からお言葉を頂戴します。

スケジュール

募集期間はBCS賞、土木賞ともに左記のとおりです。皆様からのご応募をお待ちしています。

二〇二〇年 一月六日(月)
～ 一月三十一日(金)
十七時まで

スケジュール

2019年	10月	新表彰制度の詳細公表 募集要項発表
	1月	募集開始
2020年	2～7月	選考委員による調査・選考
	8月	日建連表彰委員会にて受賞作品、 プロジェクト・構造物を決定・公表 表彰式
	11月	The Okura Tokyo 東京都港区虎ノ門2-10-4

海外プロジェクト

新表彰制度については、海外事業に対する表彰も課題として検討を行いました。最終的には海外建設協会(OCAJI)が創始する「海外建設プロジェクト表彰制度(仮称)」と連携することとしました。

海外における建設プロジェクト全般が対象で、二〇二〇年春に募集開始の予定です。